

【参考】耐震診断結果の見方

○耐震診断とは

建築物の耐震診断とは、既存の建築物が現行の耐震基準（現行の建築基準法で規定される震度6強から7に達する程度の地震に対する安全性）を評価するものです。

安全性の評価Ⅲは、現行耐震基準に相当するものです。これを下回ると評価Ⅱ「危険性がある」、評価Ⅰ「危険性が高い」とされますが、**これら評価区分により建築物の崩壊・大破の危険性が確定的となるものではなく、評価値が小さくなるに従って、被害を受ける可能性が高くなるもの**とされています。

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
	〇〇〇ビル	佐賀市〇〇町〇番〇号	〇〇〇	(1)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is=1.13 q=1.25			Z=0.8,G=1.0 U=1.0
	△△△ビル	佐賀市△△町△番△号	△△△	(2)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Is0=0.22 CTU・SD=0.19	耐震改修	平成〇年〇月～平成〇年〇月	Z=0.8,G=1.0 U=1.0

附表耐震診断の方法と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の指標

$$0.15 \times Z(0.8) \times G(1.0) \times U(1.0) = 0.12$$

$$0.3 \times Z(0.8) \times G(1.0) \times U(1.0) = 0.24$$

① 附表中の同一名称の診断方法の行から安全性の評価を読み取ります。

② 評価結果と備考の各数値を使って附表の判定式と比較することで評価(I～Ⅲ)が決まります。

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の指標		
	I	II	III
(1)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	IS < 0.3 又は q < 0.5	左右以外の場合	0.6 ≤ ISかつ 1.0 ≤ q
(2)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	IS/IS0 < 0.5 又は CTU・SD < 0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0 ≤ IS/IS0 かつ 0.3・Z・G・U ≤ CTU・SD
(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	IS/IS0 < 0.5	左右以外の場合	1.0 ≤ IS/IS0
⋮	⋮	⋮	⋮

○記号と数値について

Is値	構造体の耐震性能を表す指標(Is0は判定基準となる目標値)です。この数値が大きいほど耐震性能は高くなります。補正がない場合は0.6となります。
q値 CTU・SD(CT・SD)	構造体の粘り強さ、建築物の平面・立面形状等から求まる耐震性能に係る指標です。この数値が大きいほど耐震性能は高くなります。
Z・G・U Z・Rt・G・U	地域特性(地震活動度等)、地盤特性(地形等)、建築物の振動特性、用途等から目標値を補正するための指標です。補正がない場合は1.0となります。